

# 誘導伐における等高線に沿った伐採帯の設定について

網走西部森林管理署

片桐 勝美  
西浦 哉

## 背景

### ◎平成26年度からの森林計画において

約418ha(伐採帯面積167ha)の誘導伐予定箇所があり、より効率的な事業実行が必要となりました

### ◎効率的な事業実行の検討

コンテナ苗植栽による効率化を含め、今後の事業の効率化確保

- ・森林作業道等路網配置
- ・将来林分への誘導
- ・伐採帯の設定方法
- ・伐採から植栽までの一括契約による事業実行



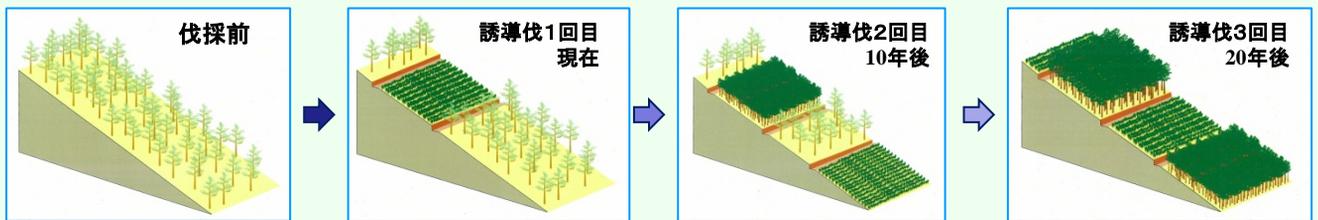
## 従来型から等高線型へ

従来の縦型の設定より等高線型での実行が効率的ではないか？



- 1 伐採の際に、地拵え、植付を考慮した作業となる
- 2 苗木運搬など植付等の際に利用できる路網となる
- 3 今後の下刈りや除伐、間伐、誘導伐(带状伐採)に至る作業が一体的に実施できる路網配置となる
- 4 伐採面積当たりの路網密度が高くなり、その後の効率的な作業に貢献できる

## 将来イメージ



## 事業概要

作業期間:平成26年7月から10月

作業場所:網走西部森林管理署 生田原第二担当区区内 337㊧林小班

生産事業:面積 16.08 ha(伐採帯面積5.21ha) カラマツ人工林53年生

保育事業:地拵面積 5.21ha 植付面積 5.21ha コンテナ苗10,500本

契約方法:素材生産、地拵え、植付までの一貫作業の技術提案方式による契約



## 実行結果

伐採・集材の際に地拵え・植付を考慮した作業となったことや、機械による地拵えの効率化を踏まえた技術提案(採用)があったこと、苗木の小運搬の工夫がされたことなど作業の効率化に向けての取り組みがなされたところであるが、収穫調査段階で伐採帯設定の難しさ等の問題もあり、今後に向けて課題もあるところである。



～メモ～